

令和7年度 第2回石狩市社会教育委員の会議 議事録（要約）

日 時 令和7年10月30日（木） 15時00分～16時00分

場 所 石狩市民図書館 研修室1

出席者

[出席委員（10名）]

木村 純・二上 朋子・山田 治己・西島 進一・佐藤 功子・出口 寿久・大橋 修作
田崎 栄子・森田 瞳・大井 慎吾

[欠席委員（5名）]

船木 幸弘・佐藤 大士・坂本 賢哉・近藤 宏・高橋 典只

[事務局（4名）]

社会教育部長 伊藤 学志・社会教育課 課長 斉藤 晶・主事 藤田 蓮飛・主事 高津 柊
[傍聴者（0名）]

【事務局】

定刻になりましたので、只今から令和7年度第2回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。

本日の会議は議事録作成の都合上の録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

それでは、早速会議次第に入らせていただきます。はじめに、木村委員長より、ご挨拶をいただきたいと思っております、宜しくお願いいたします。

【木村委員長】

こんにちは。本日はお集まりいただきありがとうございます。

本日もよろしく願いいたします。

早速ですがこのまま議題に入らせていただきたいと思っております。

～議題1 令和7年度社会教育委員の取り組みについて～

【木村委員長】

前回の会議で、「地学協働ガイドブック（仮名）」を作成する、ということに皆さま同意いただいたかと思っております。現在、地学協働を推進する方を手助けするような制度や取り組みはありますが、それをより皆さまに伝わるようにまとめよう、といった問題提起をいたしました。

作成にするにあたって、実際に活動を行っている方へのヒアリングを進める、という内容であったと思っております。実際に少しですが私の方でヒアリングを開始し、動き出しましたので報告させていただきます。

【木村委員長】

皆さまのお手元に「地学協働・コミュニティスクールについてのヒアリングのお願い」といった文書が配布されていることと思います。

そちらは 10 日ほど前からヒアリングを開始した際にヒアリングをお願いした方にお渡ししているものです。

基本的には、「地学協働に関わっていることについてどのように感じておられますか」という内容でヒアリングをしているのですが、私としてはもっと様々な方のお話を聞いてからガイドブックの内容を決定する方が良いかなと思っています。

現在 3 名の方にヒアリングを行いました。それが「地学協働についての関係者ヒアリング」という文書になります。それぞれの方々と 1 時間ほどお話ししましたが、ヒアリングした内容で私が大切だなと思った点をまとめてあります。

～当日追加資料「地学協働についての関係者ヒアリング」内容参照～

以上がヒアリングの内容になります。

これを踏まえて、また、皆さんの協力を得てさらにヒアリングを進めて、「地学協働ガイドブック」を作成したいと思います。こんな考えで取り組んでいる人がいる、こんな考えで取り組めない人がいる、といったみんなの考え方を知って、市民の間で対話をする必要があるんだよといった内容になるようなガイドブックにしたいと思っています。

紙に印刷物として作成するのか、石狩市 HP への掲載をするのか等、発行方法についてはまた皆さまと相談していければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

また、2 月ごろに実施予定の「地域で支える家庭教育推進事業※資料」内において中間発表をいたしたいと思っています。最終的にこういった形で発表するかは 3 月に行われる予定の次の社会教育委員の会議で話し合えたらと思っています。

皆さまから何か質問やご意見等ございますか。

【出口委員】

市内の学校運営協議会の様子などがこのヒアリングから読み取れると思うのですが、地学協働のガイドブックを作成するにあたって、「地学協働とは何か」「コミュニティスクールとは何か」という旨もガイドブック内に記載するべきだと思います。

学校の課題を共有してそれを解決するためにやるんだよ、ということは今一度学校の方でも理解する必要があるのかなと思います。ヒアリング内容に「学校評価に関わるから取り組んでいる」とありましたが、そう感じるということは地学協働は地学協働で、学校運営協議会は学校運営協議会でそれぞれ動いてしまっているのかなと思います。年 3 回の会議が形骸化しているということもそうですが、やれと言われたからやるのではなく、双方の理解、先生や職員の方も含めた働きかけが必要かと思っています。

【木村委員長】

ありがとうございます。私もそういったことは必要だと思います。

ただ、学校と地域コーディネーターお互いの率直な意見を言える場というのは必要だと思いますが、それは時間をかけて作っていかなければいけないものだと思います。

そのほかいかがでしょうか。

【田崎委員】

前回の会議でヒアリングする旨が決定したので、私なりにヒアリングを行ってきましたので報告いたします。

双葉小学校の囲碁教室を訪問させていただき、お話を伺いました。9月の夏休み明け、放課後に行われているところに訪問させていただきました。

講師7名に対して児童が21名参加しており、指導者、児童、保護者それぞれにお話を伺いました。指導者は日本棋院石狩支部の方々がっており、非常に熱心に指導をされておりました。課題は「高齢化でいつまで続けられるかもわからないこと」だそうでした。子どもたちは「保護者に勧められて来ているけれど、とても楽しい」といった感想が見られました。保護者の声ですが、「放課後学校にいたと思うと安心」「家庭で経験させることのできないことだからとても良い」という感想でした。地域の方々の細かな工夫と手厚いかかわりによって非常に良い空間が作られていると感じました。学校の先生も適温かどうかなど様子を見に来てくださったり、気にかけている様子が見られました。

課題は、やはり事業継続のための指導者確保かと思います。双葉小学校では、スキーやミシン等の指導者支援を実施しているそうですが、スキー学習のボランティアは学年だよりに出ていましたが、募集が出ていることを知らない人が多くいるのではないかと思います。

また、夏休みが長くなったこともあります。長期休業中のそういった居場所づくりなど、地域にそういったことができる方がいれば・・・と思いました。

【木村委員長】

ありがとうございます。様々な視点から一つの取り組みについて伺うことができました。

もっと具体的に欲しい人材について周知することができれば人材不足についていくらか解決できるかもしれないと思いました。

そのほかいかがでしょうか。こういった方にヒアリングしませんか、という内容でも構いません。

【森田委員】

私もヒアリングに参加し、先ほどその話題の中で集落支援員についてお話がありましたので少し私の方からご説明いたします。

集落支援員というのは、地域の実情に詳しい人材で、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が集落の状況把握、集落点検の実施、住民と住民、住民と市町村の間での話し合いの促進等を実施することにより、市町村職員や集落住民とともに、集落対策を推進していく役割を担っている方のことです。現在厚田区でその役割を担っていただいているのは生まれも育ちも厚田区の八木沼さんという女性の方なのですが、その方が厚田の子育てをしている方にアンケートをとり、「放課後の居場所が欲しい」という意見をもとに居場所づくりの活動をしています。

集まって遊ぶようなことから、季節のイベントを取り入れたものまでさまざまな活動をしておられます。厚田は学校が一つしかなく、バスでの通学も多いため、放課後友達と遊ぶ時間が無い、集まって遊ぶ広場などもない、熊も出て危ない、などなかなか友達と遊ぶ機会が無かったという状況でした。それが週に1回集まりがあると、たくさんの児童が遊んで、保護者が迎えに来る時間まで遊ぶことができる、という場が運営されています。その場は八木沼さんをはじめ、ボランティアで手の空いている方たちが面倒を見て運営している、といった形でうまく運営できています。

今後続けていきたいということではありますが、けがをした際の保険や、ボランティアでずっと手伝ってくれている方への報酬、子どもだけでなく高齢者の方とも遊ぶことができれば、ということもおっしゃっていました。

花川地区では寺子屋教室や先ほど言っていた囲碁教室などもありますが、厚田・浜益地区では独自にそういった場を作っていないといけないところがあると思います。地域の方も理解されているので非常に協力的だなと感じています。

ただ、高齢者の方が多く子どもが少ないため、やはりいつまで続けることができるかといった声も聞かれます。こういった現状も皆さまに知っていただければと思います。

【木村委員長】

ありがとうございました。

地学協働、とひとくくりにすることができない活動でも、地域でそういった思いを持って活動している方がいる、ということですね。

おっしゃっていた八木沼さん、という方が一生懸命やっているから一緒にやるという方も少なくはないでしょうし、どう継続していくかというのは課題になるかもしれません。

【西島委員】

ヒアリング資料や皆さんのお話を伺い、少し学校からの目線についてもお伝えできればと思います。

学校運営協議会について「学校評価に関わるから取り組んでいる」というご意見を頂きました。学校運営協議会については、「学校運営についてご意見を頂く」というのが主な場で、すべての事業の様子や普段の子どもの様子をお伝えしたり、通学路のスクールガードの方からもどかが危ないなどのご意見をいただくこともあり、さまざまな視点からのご意見を頂けて大変ありがたいと思っております。

地域コーディネーターについては本校では5年生の担任の先生が窓口となって授業内のボラン

ティアについてどうする、などといった調整を行い、それを校内で共有するといった形になっており、本校では先生がたも非常に協力的に動いてくれています。

本校は比較的歴史のある学校で、地域とのつながりがあり、非常に助かっておりますがまだまだ子どものためには地域の方々の協力が必要と考えております。

【木村委員長】

ありがとうございます。

地域の方々の一方的な意見ではなく学校からの意見もいただきありがとうございました。

大変参考になりました。

【山田委員】

私は常々石狩市の社会教育委員として社会教育にどう貢献できるのだろうと考えております。現在、学校や家庭の状況はどんどん変わってきていると感じていますが、例を挙げると不登校の生徒が増えていること、それによって家庭教育なども変化してきていること、中学校の部活動が減少していることなど、それらの実態に対して市民の方々はどのくらい知っているのか、どう思っているのかというのは非常に大事なことであると思います。

ガイドブックを作成することは大切なことだと思いますが、それらの現状を踏まえた形で市民にも知らせるような機会にもなれば良いのではないかと思います。

【木村委員長】

そういった石狩の子どもたちの現状にフォーカスを当てたものも必要かと感じます。ヒアリングと併せて考えていければと思います。

皆さま非常に積極的に発言いただきありがとうございます。もし他にご意見等ありませんでしたら今回の会議を踏まえてさらにヒアリングを進めていくということでもよろしいでしょうか。

私に「こういった人にヒアリングしてほしい」「この日程でヒアリングするので同席してほしい」などございましたら事務局を通してでもご連絡いただければと思います。

私は石狩でボードゲームを子どもたちと行っている方にヒアリングを行ってみようと考えています。

議題については以上となります。

その他の第64回北海道社会教育研究大会について、事務局から説明願います。

～事務局より日程・内容について説明（資料：令和7年度第64回～大会要項）～

【木村委員長】

今回私が参加させていただき、今回の内容等踏まえた形でお会いした皆さんにガイドブックを

作成していること、作成の経緯など報告できればと思っております。

今年は今金町で行われるのもあってか、一日の日程となっていますが他の市町村では複数名出席されているところもありますので、事務局との相談ですが来年度興味のある方は参加されてはいかがでしょうか。

以上これまでのことにご質問等ございますでしょうか。

特に無ければこれを持ちまして令和7年度第2回の社会教育委員の会議を終了します。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。